「事件」キッカケに業界・市場環境整備へ
アガリクス製造業者が新団体設立準備

カテゴリー別サプリメント

キノコ類（アガリクス・シイタケ・カバノアナタケ）

【8～10面】

キノコ類の成長株だったアガリクスは、昨年来、「事件」と「安全性」という二つの荒波にほんろうされた。

利用者の不安や不信感が急速に拡大する中で、アガリクス製品の製造業者の間では深刻な焦燥感が広がったが、その一方では健全な業界と市場環境の整備に向け、新たな胎動が聞かれる。

現在、アガリクス製品を製造する有志企業が発起人となって設立準備が進められている「アガリクス・ブラゼイ協議会」は、年内にも第一回総会を開催を視野に入れ、この九月から会員募集を開始する予定だ。

いくつかの研究機関から報告された免疫賦活作用による抗腫瘍効果や血糖値降下作用などでにわかに注目が集まったアガリクスは、一九九〇年代から毎年一〇％前後の高い伸長率で市場を拡大。キノコ類の有望商材として一大ブームを形成するまでに至った。

ところが昨年五月、某出版社が絡んだいわゆる「バイブル商法」による薬事法違反事件が発覚したことで、市場の様相は一変した。ピーク時には三百億円～三百五十億円あったとみられるマーケットスケールは一挙に「三分の一程度にまでシュリンク」（大手メーカー筋）。主要メーカーは軒並み売り上げダウンを強いられ、中には前年比で四〇％以上の大幅な減収を余儀なくされたケースもあったほどだ。

こうした市場環境の急速な冷え込みに追い打ちをかけたのが、一企業のアガリクス製品に発がんプロモーション作用が認められたとする、今年二月の厚生労働省の発表だった。

厚労省は「肝障害の疑いなど複数の事例が学術雑誌などに掲載」されていたことから、国立医薬品食品衛生研究所においてアガリクスを含む市販の三製品の毒性事件を実施。この結果、同研究所からラットを用いた中期多臓器発がん試験で一製品に発がんプロモーション作用が認められたとの中間報告を受けた。

発がんプロモーションが認められた一製品は製品収と販売中止に追い込まれたが、他の二製品の「仙生露顆粒ゴールド」（販売者エス・エス・アイ）と「アガリクスK_2ABPC顆粒」（同サンヘルス）については、遺伝毒性試験でともに陰性、腫瘍性病変の増加は確認されていない。

しかしながら、国民がアガリクスに抱いた不安感はぬぐい去れず、アガリクスに限らず「キノコ製品は全部危ない」（大手メーカー筋）という思い込みは今も根深い。

現在、設立準備が進められているアガリクス・ブラゼイ協議会に集う有志企業は、こうした状況を改善するためには「一企業では困難。協会の設立が急務」との認識で一致し、新団体の発足に向けて動き出した。

8月1日に都内で開かれた協議会の設立発表会

S・S・Iの竹口雅之氏

薬業総合月刊誌
DRUG magazine
ご注文は本社・支局まで

アガリクス・ブラゼイ協議会

販売倫理含め基準作りに着手
9月から会員募集し年内に総会

アガリクス・ブラゼイ協議会（以下協議会）は、アガリクスの人工栽培および販売を手掛ける岩出菌学研究所（本社三重県）ほか、研究経験が豊富な協和ウェルネス（本社東京都）、販売会社として普及活動に注力してきたエス・エス・アイ（本社東京都）、茸専門メーカーのホクトメディカル（本社長野県）の四社を主幹事に、アドバイザーには各種試験・分析で定評のあるTTC（本社東京都）、事務局には金沢大学発のバイオベンチャーのバイオセラピー開発研究センター（本社東京都）が名を連ねている。

全く新しい素材であるアガリクスについては、「原料供給元も販売会社も特に統一した基準を持たず各社の自主基準任せの状態だった」（協議会）が、協議会では今後、公正な取引の確保とアガリクスに関する研究・普及・振興活動を積極的に推進し、国民の健康増進に寄与することを目的に活動を展開する。

主幹事企業の一社、エス・エス・アイの竹口雅之企画統括部長は、「われわれが確固たる自主基準を持ち、それを声高らかに訴えてもなかなか国民に届かない」と一企業での啓発活動には限界があることを打ち明けながら、「厚労省など行政と連携し、真の意味での社会的な公共性を獲得したい」と意欲をみせる。

協議会では当面、①安全性の担保②トレーサビリティーの確保③規格基準の策定――を目指し、「販売倫理において中立公平な立場で協議会としての指針を明確化する」考えだ。

九月初旬には会員募集に向けての骨子を固め、同月下旬にも説明会を開催。会員は事業者と個人で、事業者については「最終製品の安全性が担保できる企業」（バイオセラピー開発研究所・豊田剛史社長）を対象にしたいとしている。

関係者の関心も高く、日本ケミファ（本社東京都）の山本俊一常務執行役員ヘルスケア部長は、協議会の活動で「正しい情報を正しく国民や行政に認めてらいたい」と期待を寄せる。

協議会は年内にも第一回総会の開き、本格的な活動を開始する。